

白峯神宮奉納

場所 白 峯 神 宮 神 楽 殿
日時 平成30年5月5日(土)午前10時

主催 白 峯 神 宮
宮 司 栗 田 口 幹 男
共催 日 本 古 武 道 振 興 会
会 長 飯 篠 快 貞

白峯神宮奉納演武

参加流派 21 参加人数 79 名

- 1 鞍馬流剣術 (柴田 章雄)
- 2 荒木流軍用小具足 (保科 侃司)
- 3 兵法タイ捨流 (上原 エリ子)
- 4 無雙神傳英信流拔刀兵法 (森本 邦生)
- 5 風傳流槍術 (今西 春禎)
- 6 小野派一刀流剣術 (鈴木ゆき子)
- 7 細川家伝統兵法二天一流 (宮田 和宏)
- 8 天然理心流 (大塚 篤)
- 9 天道流薙刀術 (木村 恭子)
- 10 神道無念流剣術 (小川 武)
- 11 神夢想林崎流居合術 (鈴木 ゆき子)
- 12 戸山流拔刀道 (中村 朋子)
- 13 直心影流薙刀術 (園部 正美)
- 14 天真正伝香取神道流兵法 (飯篠 快貞)
- 15 夢想神伝居合重信流詰合 (津村 恵治)
- 16 直元流大長刀術 (鈴木 ゆき子)
- 17 琉球古武術 (井上 貴勝)
- 18 夢想神伝流居合術 (高橋 次秀)
- 19 澁川一流柔術 (森本 邦生)
- 20 無双直伝英信流居合兵法 (石本 一平)
- 21 柳生心眼流體術 (梶塚 靖司)

〈流儀解説〉

井 上 貴 勝

平成 30 年 (2018) 5 月 5 日

白峯神宮 奉納演武順序

一、鞍馬流劍術(大野 将監)

二、荒木流軍用小具足(荒木夢仁 斉源秀繩)

三、兵法夕イ捨流(丸目藏人 佐藤原長恵)

四、無雙神傳英信流拔刀兵法(林崎甚助 重信)

柴田章雄(東京都)

柴田章雄
柴田彩水
松井康雄
柴田登一

保科侃司(埼玉県)

鶴岡嘉治
浅輪晃一

上原エリ子(熊本県)

山上原工リ子
山本隆博

森本邦生(広島県)

森本邦生
林大介

五、風傳流槍術（中山源平衛吉成）

今西春禎（大阪府）
渡邊桂一

六、小野派一刀流劍術（伊藤一刀齋景久）

鈴木宮内木
後藤竹一
酒井藤典
鈴木井章
鈴木木健
鈴木木香
鈴木木香
茂木大

七、細川家伝統兵法二天一流（新免武藏玄信）

宮田和宏（福岡県）
宮富昭長
宮田昭長
メルハヤシ

八、天然理心流（近藤内蔵之助藤原長裕）

大塚篤（茨城県）
大塚英篤
藤田美徳
栗原眞人
助川

九、天道流薙刀術（齋藤判官伝鬼房）

木村恭子（東京都）

玉置捷子
井上彌子
磯部美代
白石利重
岡田仁美

十、神道無念流劍術（福井兵右衛門嘉平）

小川武（東京都）

小川武則
齋藤政文
土屋正則

十一、神夢想林崎流居合術（北條甚助林崎平重信）

鈴木木ゆき子
宮内一朗
大竹喜一

鈴木木ゆき子
宮内一朗
大竹喜一
後藤正典

十二、戸山流拔刀道（中村泰三郎）

中村朋子（神奈川県）

高野弘光
阿部英夫

十三、直心影流薙刀術（山田平左衛門藤原光徳）

園部正美（奈良県）

福井正美
井上三子
嶋上三子

十四、天真正伝香取神道流兵法（飯篠長威齊家直）

十五、夢想神伝居合重信流詰合（林崎甚助重信）

十六、直元流大長刀術（天真正笠井藤左衛門尉）

十七、琉球古武術

大西谷大
森岡口谷
よ久克康
し美
子子美裕

飯
篠
快
貞
（千葉県）

津
村
恵
治
（埼玉県）

宮鈴
内木
ゆき
一子

井
上
貴
勝
（東京都）

深塩山道恵吉井
見田口正下田上
将久量泰浄 貴
文男也弘尊実勝

鈴前

木田

真樹

由里

日本古武道振興会役員名簿

顧問

(公財) 全日本柔道連盟会長

山下泰裕

(一財) 全日本剣道連盟会長

張 富士夫

(公財) 全日本弓道連盟会長

中野秀也

(公財) 全日本なぎなた連盟会長

佐藤浩市

(公財) 合気会理事長

植芝守央

会長

天真正伝香取神道流兵法

飯篠快貞

副会長

小笠原流弓馬術礼法

小笠原清忠

柳生新陰流兵法

柳生耕一

常任理事・事務局

鞍馬流剣術

柴田章雄

常任理事・会計担当

神道無念流剣術

小川武

常任理事・事務局顧問担当

琉球古武術

井上貴勝

常任理事

宝蔵院流高田派槍術

一箭順三

荒木流劍法

菊池邦光

天道流薙刀術

木村恭子

大東流合気柔術

近藤勝之

澁川一流柔術・無雙神傳英信流拔刀兵法

森本邦生

理事

鹿島神傳直新影流

岩佐勝

竹内流腰廻小具足

竹内藤一郎

氣樂流柔術

水科壽美

監事

天神真楊流柔術

久保田修弘

評議員

立身流

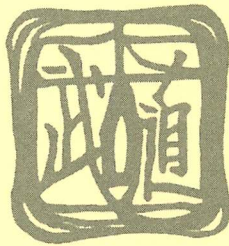
加藤紘

古武道振興会沿革

日本古武道振興会は、昭和十年四月一日、松本学貴族院議員、小山松吉司法大臣、二荒芳徳伯爵等、当時の有識者と古武道各流派代表者が集まり結成されました。日本の誇るべき伝統文化財である古武道の衰微を憂い、その保存と振興を図ることを目的としました。昭和十五年四月四日には、財団法人の許可を受け多彩な活動を展開し大きな成果をあげてまいりましたが、終戦に伴う米軍占領下という事情もあり、財団法人を自主解散し、現在にいたる任意団体になりました。

古武道振興の主旨は、日本の誇るべき文化財である日本武術の神髓を体得錬磨し、青少年に普及することにあります。「武は戈を止める」と申されております如く日常の武術修練によつて得た心技体の実力をあくまで表面に示さず謙虚に余裕をもつて自己及周囲を洞察する心と体を養うことにあります。その武の心を心として各流派宗家、師範を中心に毎年十一月三日の明治神宮の演武大会、伊勢神宮（式年遷宮年）、靖国神社、下鴨神社、白峯神宮、熱田神宮、浅草神社、等戦前に引続き奉納演武が恒例となっております。

日本古武道振興会としては、活動の一環として古武道大会開催の他、流儀解説の普及にも努めてまいりました。昭和三十七年発行の機関誌「真鏡」第二号で各流儀の流祖伝系、演武者の経歴を掲載したのをはじめ、昭和四十五年には「真鏡」別冊で同じく流儀解説を紹介、その後本格的な流儀解説書を創立四十六周年（昭和五十六年）に発行し、創立五十周年（昭和六十年）からは五年ごとに創立記念古武道大会を開催すると同時に、流儀解説書を改訂刊行してまいりました。平成二十七年七月十九日（日）には、創立八十周年記念大会を中野サンプラザホールにて開催致しました。古武道の益々の発展と隆盛を期して参ります。



日本古武道振興会

事務局 〒160-0016 東京都新宿区信濃町11-12 柴田章雄

ホームページ <http://kobushin.jp/>
メール kobudoushinkoukai@yahoo.co.jp